

事務局： E-mail jaeis-jimu@jaeis.org <http://jaeis.org/>**会長あいさつ****会長 西野 和典 (太成学院大学)**

会員の皆様、平素から本学会の活動にご参加・ご協力をいただき、有難うございます。

3月に2020年度第3回理事会・評議員会を開催しました。今年度の第14回全国大会は、7月3日(土)・4日(日)に「GIGAスクール時代における情報科教育の役割」を大会テーマに、オンラインで開催することになりました。1日目は、口頭発表、基調講演、企業セッション、招待講演を予定しています。2日目は、口頭発表のほかに企画セッションを設け、最後にパネルディスカッションを予定しています。多くの皆様のご参加とご発表をお待ちしております。

また、同理事会・評議員会で、事務局業務の負担軽減を図るため、事務の一部を専門業者に委託することを検討いたしました。今後、外部委託を含めて事務局の体制強化を図り、皆様へのサービスを高めていきたいと考えています。さらに、昨年度、皆様にご協力をいただきました「JAEIS基金」を活用して「幼児教育および初等・中等教育に所属する教員の実践研究に対する支援」を実施することも進めています。全国大会に合わせて具体的な提案ができればと考えています。

新年度に入り、新型コロナウイルス感染が急拡大する地域が増え、東京都、大阪府など9都道府県(5月16日時点)では緊急事態宣言が発令されました。まん延防止等重点措置の対象地域も広がり、新学期から対面での授業を再開した大学も、再びオンライン授業に切り替える動きが増えています。また、小・中・高校においても、学校行事や部活動が制限されるなどの影響を受けている地域があります。このような状況の中で、これまで以上にICTの活用を前提とした授業や学校運営が求められています。また、児童・生徒・学生は、学校を離れて自宅で、自主的にオンラインで学習する態度とスキルが必要になっています。

本号目次

学会長挨拶	1	報告 第16回研究会	8
第14回全国大会案内	3	報告 各支部	9
報告 第13回全国大会	5	報告 編集委員会	12
報告 第12回フォーラム	7	事務局からの連絡	13

会長あいさつ

15年以上前になりますが、2005年の秋、私は米国を訪れて日本の中学校・高校に相当するハイスクールでの情報教育の調査を行いました。その時、すでに米国のハイスクールでは、LMSを利用して自宅でのオンライン学習を前提とした授業が展開されようとしていることに驚きました。2006年4月にミシガン州が初めて高校卒業の要件としてオンライン学習を課すことになり、続いて、アラバマ、アーカンソー、フロリダ、バージニアの各州も同様にオンラインを卒業要件に課すなど、オンライン学習をハイスクール在学中に意図的に経験させる取り組みが以前から行われています。

米国に限らず、日ごろからオンラインでの「学び方を学ぶ」教育を意図的に行っている国・地域では、この度のオンライン授業には容易に対処できたのではないかと思います。学校教育を受ける期間に、オンラインで学ぶ態度とスキルを育成することによって、学校教育終了後に社会人として学びなおしを行う際の力となることでしょう。教員の皆様、コロナ禍の中で、オンライン学習のための授業準備で忙しい日々を送られていることと思いますが、オンライン学習は、担当する教科の内容だけでなく、生徒や学生が自律的に学習する態度やスキルを身につける過程でもあることを感じながら、私も教材の準備に励みたいと思います。

さて、大学入試センターから、3月24日付けで、令和7年度（2025年度）の大学入学共通テストからは、新たに「情報科」を含めて7教科を出題することがアナウンスされました。

「試作問題」も公開されており、高校、大学の現場で今後、「情報1」の共通テストに関する具体的な議論がさらに活発に行われるようになると思います。本学会では、昨年4月に「大学入学共通テストにおける共通教科情報科の出題について」を文科省に要望するとともに、昨年末のJAEISフォーラムは、「大学入学共通テスト『情報』新設」をテーマにして実施し、大学入試センターの試験問題調査官（情報担当）にもご参加いただき、共通テスト「情報1」に関する議論を深めました。

2022度から、いよいよ全国の高校で共通必修科目「情報1」を含む新カリキュラムがスタートします。本学会では、これからも積極的に研究・実践の発表、および情報交流を図る機会を提供するなど、会員の皆様の情報科教育に関する研究をサポートしていきたいと考えています。会員の皆様には、今後とも本学会の活動に参画していただき、研究・実践の成果をあげられることを切に願っております。

皆様におかれましては、時節柄、健康にはくれぐれもご留意いただきお過ごしください。引き続き、学会活動にご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第14回全国大会案内

日本情報科教育学会第14回全国大会を以下の日程・内容で開催いたします。奮ってのご参加をお待ちしております。

記

■ 大会テーマ

GIGAスクール時代における情報科教育の役割

■ 趣意

GIGAスクール構想により、本年度より小中学校における1人1台端末及び高速大容量の通信環境下での学びが本格的にスタートします。さらに、新学習指導要領では、情報活用能力が、言語能力と同様に学習のなる基盤となる資質・能力として位置づけられました。子どもたちがいつでもどこでも1人1台端末を活用することにより、教科等における主体的・対話的で深い学びにおける効率的・効果的なICT活用に加え、子どもたちの情報活用能力も向上します。すなわち基本的な操作、問題解決・探求における情報活用、プログラミング、情報モラル・情報セキュリティ等の情報活用能力を身につけた子どもたちが高等学校に進学してきます。また、高等学校においても、1人1台端末の決定あるいは検討している自治体があるなど1人1台端末の導入の動きが始まっています。

このような状況において、小学校・中学校・高等学校を通した縦断的な視点から、また高等学校の教科等の横断的な視点から情報科教育の果たす役割について議論し、さらには1人1台ICT環境での情報科の新しい学びについても様々な知見を相互に意見交換することを目的に、第14回全国大会を開催することとします。なお、本大会も、オンラインでの開催とします。

■ 開催日程

2021年7月3日（土）・4日（日）

■ 開催場所

オンライン開催

■ プログラム（予定）

<第1日：2021年7月3日（土）>

9:30～10:45 研究発表1：口頭発表（5件 × 最大4パラレル）

10:45～10:55 休憩

10:55～12:10 研究発表2：口頭発表（5件 × 最大4パラレル）

12:10～13:20 昼休み（理事会・評議会）

13:20～13:50 総会

第14回全国大会案内

14:00～14:10 開催宣言・趣旨説明

14:10～14:40 基調講演：西野和典 会長（太成学院大学 教授）「題目（未定）」

14:40～15:40 企業セッション

15:40～15:50 休憩

15:50～17:00 招待講演：田崎丈晴 調査官（文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付産業教育振興室教科調査官、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課情報教育振興室教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官）
「題目（未定）」

<第2日：2021年7月4日（日）>

9:30～10:45 研究発表3：口頭発表（5件 × 最大4パラレル）

10:45～11:00 休憩

11:00～12:00 企画セッション（最大4パラレル）

・教員養成・研修委員会「情報科教員に求められる資質・能力とは？（案）」

12:00～13:00 昼休み（委員会・研究部会の会議）

13:00～15:00 パネルディスカッション

「1人1台端末時代における情報科教育の役割と可能性（案）」

コーディネーター：未定

パネリスト：未定

15:00～15:10 クロージング

■ 参加費（事前申し込みのみ）

- ・正会員／協賛会員：2,500円 *初等中等の教職員：1,500円
- ・学生会員：500円
- ・非会員：3,500円

■ 各種期限

- ・研究発表・講演論文原稿提出：2021年5月23日（日）
- ・参加申し込み及び振り込み：2021年6月18日（金）
*申し込み先、その他詳細は、全国大会Webサイトをご覧ください。

■ 全国大会Webサイト

- ・近日中に公開予定（公開については、後日、会員の皆さまにメールにてご案内いたします。）

日本情報科教育学会第13回全国大会を終えて

全国大会企画委員長 浅羽修丈(北九州市立大学)

日本情報科教育学会（JAEIS）第13回全国大会を、「新型コロナウイルス禍でのオンライン教育の経験知の共有と教科情報の今後」のテーマのもとで、2020年12月26日（土）・27日（日）の2日間にわたり開催させていただきました。本大会は、新型コロナウイルス（COVID-19、以下コロナと略す）感染症拡大の影響を受けまして、本大会では初めてオンラインでの開催に至りました。また、本大会は、これもまた初めてフォーラムとの合同開催と相成りました。大会の運営に携わっている学会関係者の皆さまには、初めてづくしで勝手が分からないにも関わらず、色々と柔軟に準備を進めていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、コロナの影響を受けて、初等中等教育でのオンライン教育等のICT活用教育の推進の機運が急速に高まっています。さらに広くいえば、オンラインを活用した様々な社会活動全体がポストコロナ時代の要請となっています。こうしたポストコロナの社会で活躍する子どもたちの育成の観点では、教科情報の役割がますます高まることが予想されます。本学会に所属する多くの研究者・教育実践者は、この間オンライン教育の実践を通じて、今後の教科情報とオンライン教育に関わる様々な知見を蓄積してきました。本大会では、こうしたコロナの経験を踏まえた各会員の教育実践を共有する場を提供し、今後の情報科教育に関わる様々な知見を相互に意見交換することを目指しました。

文部科学省、経済産業省、総務省からのご後援、関係学会や研究会など6団体からのご協賛に加え、6社の企業からの広告をいただきました。大会の発展にご支援・ご協力いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

本大会およびフォーラムで、128名の方々からご参加をいただきました。本大会プログラムにおきましては、基調講演1件、企業セッション3件、口頭発表37件のご登壇をいただきました。また、フォーラムでは、講演1件とパネルディスカッション1件のご登壇をいただきました。ご登壇いただいた皆さまだけでなく、各テーマについて議論に参加していただいた皆さまに、深く御礼申し上げます。

大会初日には、基調講演、企業セッション、口頭発表が行われました。基調講演では、西野和典先生（日本情報科教育学会 会長、太成学院大学 教授）から「ポストコロナにおける教科情報」という題目でご講演をいただきました。問題解決と情報科教育の関係、および、すべての学習の基盤としての情報科教育という2つの観点から、ポストコロナにおける教科

情報の在り方についてご講演いただきました。

企業セッションでは、未来キッズコンテンツ総合研究所様、eラーニング教員免許状更新講習推進機構KAGAC様、Google様にご登壇いただきました。

大会2日目には、口頭発表とフォーラムが行われました。フォーラムでは、鹿野利春様（国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官ほか）から、「新しい情報科を教える準備」というテーマでご講演をいただきました。続いてのパネルディスカッションでは、パネリストとして水野修治様（独立行政法人 大学入試センター 試験問題調査官（情報担当））、中山泰一先生（電気通信大学 教授）、萩谷昌己先生（東京大学 教授）、青山貴史先生（福岡県立新宮高等学校 教諭）、山下裕司先生（山口県立岩国高等学校 教諭）、北野堅司先生（大阪府立東百舌鳥高等学校 教諭）をお招きし、「2025年度大学入学共通テストに「情報科」が新設、私たちがそれまでにやらなければならないこと」というテーマでディスカッションが行われました。それぞれの立場から、大学入学共通テスト「情報科」で出題される問題の傾向やその準備として必要なことなど、多くの観点から活発な意見交換が行われました。

全国大会の基調講演、企業セッション、研究発表では、ポストコロナを意識した情報科教育の在り方について議論でき、合同開催のフォーラムでは、新設される情報科や大学入学共通テストに対する準備について議論できました。これらは、ともに数年後の情報科教育についての議論になります。その意味では、今大会は、近い未来に訪れる情報科教育について、参加者の皆さまと意見交換する場を提供できたのではないかと考えております。この意見交換が、情報科教育の未来を良い方向に導くきっかけになってくれることを期待しています。最後になりましたが、本大会の運営に多大な尽力を賜りました皆さま方に、本紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

日本情報科教育学会 第12回フォーラム

研究委員会 尾崎知伸（日本大学）

第12回フォーラムは、「大学入学共通テスト『情報』新設」をテーマとし、2020年12月27日（日）にオンラインでの開催となりました。今回は第13回全国大会からの連続開催であり、参加者は約130名でした。

~~~~~  
フォーラムプログラム

日時：2020年12月27日（日）

場所：オンライン

13:00 開会の挨拶

13:10 講演「新しい情報科を教える準備」

鹿野 利春

（国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 研究開発課 教育課程調査官  
文部科学省初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 情報教育振興室 教科調査官  
文部科学省初等中等教育局 参事官(高等学校教育)付 産業教育振興室 教科調査官)

14:10 休憩

14:20 パネルディスカッション

「2025年度大学入学共通テストに「情報科」が新設、  
私たちがそれまでにやらなければならないこと」

司会 森本康彦（東京学芸大学）

パネリスト

水野 修治（独立行政法人 大学入試センター 試験問題調査官（情報担当））

中山 泰一（電気通信大学 教授）

萩谷 昌己（東京大学 教授）

青山 貴史（福岡県立新宮高等学校 教諭）

山下 裕司（山口県立岩国高等学校 教諭）

北野 堅司（大阪府立東百舌鳥高等学校 教諭）

16:35 閉会の挨拶

16:45 終了

~~~~~  
開会挨拶の後、文部科学省の教科調査官である鹿野利春先生に「新しい情報科を教える準備」というタイトルでご講演をいただいた。講演では、情報科の科目の変遷について概観したのち、これまでの「情報と社会」「情報の科学」も振り返りながら、情報社会の問題解決・情報デザイン・プログラミング・ネットワーク・データの扱い・情報セキュリティの各項目に関する「情報I」における学習内容を詳細にご説明いただいた。また「情報II」に関しても、データの活用・プログラミング・人工知能を中心に、情報Iとの関連性・連続性を含め、その学習内容をご説明いただいた。加えて、教員研修に向けた教材についてもご紹介いただいた。

その後のパネルディスカッションでは、東京学芸大学の森本康彦先生が司会を務め、「2025年度大学入学共通テストに「情報科」が新設、私たちがそれまでにやらなければならないこと」をテーマに、多様な背景を持つ6名のパネリストがそれぞれの立場・視点から見解を述べ、参加者を含めた討論を行った。

招待講演、パネルディスカッション共に活発な意見交換が行われ、有意義な会となった。ご出席いただきました皆様と、準備等を担当いただきました研究委員会および全国大会企画委員会の皆様に感謝申し上げます。

日本情報科教育学会 第16回研究会報告

関東・東北支部 尾崎知伸（日本大学）

2021年3月27日（土）に、関東・東北支部の担当で第16回研究会がオンライン開催されました。研究会では、4件の発表が行われ、参加者は約30名でした。

研究会プログラム

日時：2021年3月27日（土）

場所：オンライン

14:00 - 14:05 開会の挨拶

14:05 - 14:30 SDGsを活用した「総合的な探究の時間」の指導法

－ 縦糸・横糸モデルに基づく社会問題解決への取り組み －

近藤 千香（東京工業大学附属科学技術高等学校）、玉田 和恵（江戸川大学）、松田 稔樹（東京工業大学）

14:30 - 14:55 高等学校情報科における「言葉によるフィードバック」に関する研究

－ 学習のための評価の実践として －

北川 一樹（広島大学）、長松 正康（広島大学）

14:55 - 15:05 休憩

15:05 - 15:30 ICT活用指導力育成のためのオンライン上での共通教科「情報」の模擬授業の効果

東山 拓未（東京学芸大学）、大橋 里沙（東京学芸大学）、
森本 康彦（東京学芸大学）

15:30 - 15:55 震災復興支援に用いた成人向けICT入門講習用コースウェア

小林 智弘（株インターネットイニシアティブ）、垣根 小百合（応用オートマトン研究会）、荒井 直之、若月 昇（石巻専修大学）、夜久 竹夫（日本大学）

15:55 - 16:00 閉会の挨拶

4件の口頭発表では、それぞれ、探究活動における取り組みの整理、振り返りシートの分析とフィードバック、オンライン模擬授業の実践と評価、ICT未経験者を対象とした講習会用コースウェアを中心テーマとしており、各発表において活発な質疑応答が行われた。

ご出席いただきました皆様と、準備等を担当いただきました関東・東北支部の皆様にご挨拶申し上げます。

近畿・北陸支部講演会及び研究会の報告 2021年3月28日 大阪芸術大学短期大学部・伊丹学舎

2021年3月28日（日）、大阪芸術大学短期大学部・伊丹学舎におきまして、本学会近畿・北陸支部講演会及び研究会を、大阪芸術大学短期大学部との共催で開催されました。新型コロナウイルス感染症防止の観点から会場へは支部役員が集合し、発表者や参加者はZoomによるオンライン参加となりましたが、予約の30名を超えて40名の方々に参加いただきました。

午前の支部理事会・総会に引き続き、午後から「コロナ禍における情報科教育の現状 —現状と将来—」といったテーマで、北野先生の総合司会によって講演会及び研究会が開催されました。講演会では、学会長の西野先生が「情報教育を推進する教員および支援者の養成と学び直し」、高橋先生からは「高専におけるプログラミング教育を振り返って」、鹿野先生は「新しい情報科の実施に向けた期待と課題」といったテーマで、稲川先生の司会によって貴重な講演をいただきました。後半のパネルディスカッションでは、喜家村先生、西田先生、竹中先生、米田先生の4人のパネリストが、佐藤先生の司会進行によりまして真摯で熱い討論を展開いただきました。なお、当日のプログラム内容は次のようになります。

プログラム

- 近畿・北陸支部理事会・総会 11:00～12:00
- 共催 日本情報科教育学会近畿・北陸支部、大阪芸術大学短期大学部
- テーマ コロナ禍における情報科教育の現状 —現状と将来—
- 開会挨拶 近畿北陸支部長 武村 泰宏(大阪芸術大学)
- 講演会・研究会 13:00～17:00(オンライン入室開始 12:30～)
- 総合司会 北野 堅司(大阪府立東百舌鳥高等学校)

【講演】 13:05～15:20 司会進行 稲川 孝司(帝塚山学院大学)

<講演Ⅰ> 「情報教育を推進する教員および支援者の養成と学び直し」

学会長・太成学院大学教授 西野 和典 先生

概要：九州工業大学では、2001年から高等学校情報科の免許を追加取得するための免許法認定公開講座（情報）を毎年開講しています。また、2007年からは、初等中等教育および生涯学習のための情報教育支援士養成講座を開講し、地域の情報教育の支援者を養成しています。これら情報科の教員養成や情報教育の支援者養成は、実は、地域としての情報教育の環境整備や、生涯学習としての学び直しや教員のリカレント教育にも貢献していました。筆者がかかわってきたこれらの実践から、これからの情報教育推進の方向性や大学の社会的役割についてもお話しします。

<講演Ⅱ> 「高専におけるプログラミング教育を振り返って」

NPO法人学習開発研究所 高橋 参吉 先生

概要：少し専門教科よりですが、これからの情報科のプログラミング教育を考えると、考え方は、共通教科でも適用できると思います。C言語の教科書（コロナ社）を、UNIX環境での電子教科書にして、プログラムの編集と実行ができるようにしました。さらに、卒業研究で開発した学習支援システム（プログラミングノート）に組み入れて、このシステムを利用した授業実践です。プログラミングノート：プログラムの実行ごとに、

学習履歴を残していく電子ノート「主体的な深い学びの授業」のための個人のノートです。

<講演Ⅲ>「新しい情報科の実施に向けた期待と課題」

文部科学省初等中等教育局,

参事官(高等学校担当付産業教育振興室, 教科調査官) 鹿野 利春 先生

概要: 新しい情報科の実施による社会の変化, 高校1人1台情報端末など近々の話題に加えて, 情報科教員養成などの課題についても触れていきます。

【パネルディスカッション】 15:30~16:55 司会進行 佐藤 万寿美(同志社女子大学)

<パネリストおよび概要>

喜家村 奨 先生(帝塚山学院大学) 遠隔プログラミング実習の問題点とその対策について考える

概要: 今年度、コロナ禍において、みなさんは様々な工夫をして遠隔でのプログラミング実習を行われてきたと思います。遠隔の実習での1つの大きな問題点は、机間巡視ができない点だと思います。これに変わる仕組みについても、グループによる実習進行、画面転送による進捗状況の確認など様々な試みをされてきたと思います。では、それで十分でしょうか?ここでは、プログラミング実習での「机間巡視」の必要性について再確認し、遠隔でのそれに代わる方法について、みなさんと考えます。

西田 知博 先生(大阪学院大学) Google ColabとMOOCを用いたプログラミング学習

概要: 高等学校の新課程開始に向け、文部科学省からその準備のための教員研修教材が提供されています。情報処理学会はGoogleなどの協力を得て、この研修教材を元にしたMOOCの制作を新型コロナウイルスの流行前から進めており、現在Google Colabを用いたプログラミングに関する教材を提供しています。この教材はコロナ禍を想定したものではありませんでしたが、結果的にはその状況での研修を補うコンテンツとなっています。また、この教材は生徒が学ぶことも想定して作っており、コロナ禍での自宅学習に対応するものとなっています。パネルでは本教材概要について紹介します。

竹中 章勝 先生(奈良女子大学) コロナ禍における中学校の取り組みと大学における情報関係科目の遠隔教育報告

概要: GIGA スクール構想が始まろうとした矢先に新型肺炎流行により休校が余儀なくされたり、オンライン授業に切り替わった中で、中学校がどんな取り組みをし、生徒がどのように変わってきたのか紹介します。また、大学における座学講義、プログラミングや情報デザインなど実習を伴う講義を、LMSを通してオンデマンド型講義を行った実践から、自宅学習に向けた授業展開について紹介し、みなさんと考えていきます。

米田 謙三 先生(関西学院千里国際中・高等部) コロナ禍におけるBYODを活用したSTEAM 教育概要: 1学期全く休校をすることなくオンラインで時間割通りの授業を実施しました。実現を可能にしたBYOD の状況及びSTEAM教育の事例を紹介します。

東海・中部支部総会及び研究会報告

2021年2月20日(土)Zoomによるオンライン形式で、東海・中部支部総会及び研究会を開催しました。支部研究会は学会員以外でも参加でき、また、オンライン開催なので会場までの旅費と時間が掛からないため、来年度から始まる「情報Ⅰ」への関心が高まる高校の先生方に多数参加していただきました。

所属別参加者数

高校教員（中高一貫を含む）	32
教育委員会（教育センターを含む）	4
大学	12
企業	2
その他	1
計	51

プログラム

○東海・中部支部役員会・総会 13:00～14:00

○研究会 14:00～16:40

司会 永田奈央美先生（静岡産業大学）

・研究発表

1 「ゲーミフィケーションを用いてフェイクニュースを学ぶ「ニュース人狼」の提案」

○山坂 菜々先生，江島 徹郎先生（愛知教育大学）

2 「情報科での統計分野の指導について」

～「情報Ⅰ・Ⅱ」実施に向けて数学科と連携した統計教育の指導について～

○加藤 和幸先生（金城学院高等学校）

3 「Arduinoをつかったイルミネーションづくり」

○高木 貴光先生（岐阜県立岐阜各務野高等学校）

4 「monaca を使ったJavaScript プログラミング教育」

○室谷 心先生（松本大学）

5 「LINE BOTとGoogle Apps Scriptによるアカウントのプライバシーに配慮した画像共有・文章収集システム」

○浅見 大輔先生（長野県諏訪実業高等学校）

日本情報科教育学会 中部・東海支部役員会

1. 総会について

1. 1. 報告

2020年度事業報告(案)について

2020年度決算報告(案)について

2020年度～2021年度役員（所属変更）について

1. 2. 計画

2021年度事業計画(案)について

2022年2月19日(土)ごろ

支部総会・研究会

2021年度予算案について

2. その他

日本情報科教育学会誌第13号 (Vol. 13) は、情報科教育に取り組んでおられる学会員の方々のご協力を得て発刊することができました。本号では、巻頭言1編、招待論文5編、採録されました論文3編を掲載させていただきました。論文は1名の主査および2名の副査による査読、学会誌編集委員会での審査を経て掲載しています。また会告6報、賛助会員広告3報を掲載いたしました。貴重な招待論文、論文を投稿いただきました著者の方々、教育研究活動でご多忙にも関わりませぬ査読をご担当いただきました先生方、編集作業にご支援を賜りました方々に深く感謝申し上げます。この度は、コロナ禍での編集作業であったためコミュニケーションなどの課題もありましたが、本号発刊にたどりつきましたのも、みなさまのご尽力のおかげと重ねて厚くお礼申し上げます。

今後、本号を手にとった方々にとって掲載された招待論文、論文などが実践的な知見になり、会員のみなさまへの貢献の一つになりましたらこの上ない幸せであります。また情報科教職課程で修学している若い方々への教育の一助になりましたら、うれしい次第であります。最後になりましたが、情報科の教育実践等を論文として活字にまとめることは時間も労力もかかりますが、論文にすることで多くの知見を共有できますので、学会誌への積極的なご投稿をお願い申し上げます。

学会誌編集委員会 武村泰宏 (大阪芸術大学)

日本情報科教育学会誌 第13号 Vol. 13, No. 1 (2020)**目次****巻頭言**

今こそ、日本情報科教育学会のプレゼンスを社会に対して発揮する時！ 鷹岡 亮 1

招待論文

- 情報科で変わったこと 鹿野利春 5
—内容の継続と差分—
新型コロナウイルス禍におけるICT教育の現状についてのケーススタディ 岩井憲一 9
Society 5.0における情報科教育への期待 阿濱, 茂樹, 岡村吉永, 沖林洋平 15
—価値の創造と受容を重視したカリキュラムの検討を通じて—
プログラミング教育のすすめ 齋藤 実 19
—高等学校「情報」の方向性考察—
計測・制御分野でのシミュレータによる遠隔実習の提案 稲川孝司 29
—micro:bitによるNeopixel LEDプログラミン学習より—

論文

- 共通教科情報科におけるデータサイエンスに関する学習内容に対する担当教員の意識 下地勇也, 福井昌則, 掛川淳一, 森山 潤 35
統計教育における高等学校共通教科情報の役割 古賀竣也 45
—ニュージーランドの統計教育カリキュラムとの比較を中心に—
マルチアクセス環境におけるLMSを活用した『豊かな学び』の促進に向けた実践と考察 若杉祥太, 藤上真弓, 嶋本雅宏, 鷹岡 亮, 加藤直樹 55

会告

事務局からの連絡

事務局からの連絡

- ・所属等の変更のある方は、至急、ご連絡ください。
- ・会費未納の方は、会費の納入をお願いします。年会費が未納の場合、学会誌に投稿できない、学会誌が送られない、また、全国大会や研究会（研究委員会主催）での発表ができないなどの措置がとられます。

金額等については、以下のURLでご確認ください。

<http://jaeis.org/nyukai/>

会費振込口座

【金融機関名】 三井住友銀行 高田馬場支店(273)

【口座種別】 普通預金口座

【口座番号】 4435574

【口座名義】 日本情報科教育学会（ニホンジョウホウカキョウイクガクカイ）

※ 振り込み手数料につきましては大変恐縮ではございますが、各自ご負担戴きます様
お願い申し上げます。なお、ゆうちょ銀行振替口座へのお振り込みをご希望の場合
は、ご面倒でも事務局(jaies-jimu@jaeis.org)までご連絡ください。

日本情報科教育学会ニューズレター No. 33 2021年5月18日

発行所 日本情報科教育学会事務局

<http://jaeis.org/>

E-mail jaeis-jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：高橋 等（静岡産業大学） 副委員長：坂田 圭司（東海大学）

委員：笥 捷彦（東京通信大学） 池田 勇（植木保育園） 青山 貴史（福岡県立新宮高等学校）

齋藤 ひとみ（愛知教育大学） 後藤 隆彰（東洋大学） 尋木 信一（有明工業高等専門学校）

永田 奈央美（静岡産業大学）